



特集

誰もが働ける場を札幌に—— 夕暮れ時から開店する「夜のパン屋さん☆札幌」を開催する —— ビッグイシューさっぽろ

Book Stories 本づくりのさきにあること——。

多世代が交流する地域の居場所として札幌でシェア型書店「ぶらっと BOOK」を開店し、もうすぐ1周年——

【ぶらっと BOOK 代表】星野 恵さん

- | | | |
|----------|------------------------|--------|
| ほっかいどうの本 | 『RUST RUN!!!』 | 北海道新聞社 |
| | 『石狩川隨想 一私が出逢った人・食・歴史—』 | 亜璃西社 |
| | 『サイエンスコミュニケーションの道具箱』 | 共同文化社 |



「夜のパン屋さん☆札幌」を訪れる買い物客

特集

誰もが働く場を札幌に—— 夕暮れ時から開店する 「夜のパン屋さん☆札幌」を開催する ——ビッグイシューさっぽろ

毎月1回、夕暮れ時に開店する「夜のパン屋さん☆札幌」は、ホームレスの自立を支援する雑誌『ビッグイシュー日本版』の取り次ぎなどで、生活に困っている人たちの働く場づくりに取り組む任意団体「ビッグイシューさっぽろ」が運営しています。

ビッグイシューさっぽろの平田なぎさ事務局長はじめ関係者の方々に、「パンを焼かないパン屋さん」として活動を開始してから4年目を迎えた「夜のパン屋さん☆札幌」の仕組みや経緯、現在の課題などについて話を聞きました。

(文・写真／片山健一 取材日2025年11月25、28日)



社会問題の解決を目指し 夜のパン屋さん開店

夜のパン屋さんは、フードロス（食品廃棄）削減と同時に、貧困やホーミレスといった社会問題の解決を目指す取り組みです。まちの「製パン店」から売れ残りそうなパンを引き取り、夜に別の会場で販売することによって、働くことに不安を感じている人たちでも気軽に働ける場を創出しています。2020年10月に東京都で始まり、札幌市では2022年11月に初めて開かれました。

夜のパン屋さん☆札幌の販売場所となるアンタップトホステル。
右奥がシーソーブックス



ピッグイシューさっぽろの平田事務局長

ボランティアスタッフが、市内近郊にある7つの製パン店から受け取ったパン約170個を持ち込むと、カウンターの上に、それぞれの製パン店を紹介するPOP広告の位置に合わせてパンを陳列していくます。並んだパンは、食パン、あんパン、スコーン、フォカッチャ、胡椒など約40種類。個別に包んだビニール袋全てに原材料、消費期限などを記した食品表示ラベルを貼り付

自信を取り戻す
働く喜びと

ボランティアスタッフが、市内近郊にある7つの製パン店から受け取ったパン約170個を持ち込むと、カウンターの上に、それぞれの製パン店を紹介するPOP広告の位置に合わせてパンを陳列していくます。並んだパンは、食パン、あんパン、スコーン、フォカッチャ、胡椒など約40種類。個別に包んだビニール袋全てに原材料、消費期限などを記した食品表示ラベルを貼り付

の「夜のパン屋さん☆札幌」の開店日でした。札幌市営地下鉄南北線の北18条駅のほど近く、北区北18条西4丁目にあるゲストハウス「UNTAPPED HOSTEL」1階がこの日の販売場所です。午後3時ごろから販売員やボランティアスタッフが集まり始め、午後4時の開店に向けた準備を始めます。

スタッフ同士では、「きょうは開店から売れ行きがいいね」「このパンがもう売れ切れそう」「あと30分、頑張ろう」と声を掛け合います。スタッフ同士では、「きょうは開店から売れ行きがいいね」「このパンがもう売れ切れそう」「あと30分、頑張ろう」と声を掛け合います。

この日から販売場所が屋内に移つたこともあり、販売場所の変更や今後の開催日程などを知らせるチラシを作成し、事前に約500枚を近隣に投函して回りました。そして、「夜のパン屋さん☆札幌は活動3周年を迎えました。どうぞこれからもよろしくお願いします。」という感謝の言葉とともに、営業中もボランティアスタッフが交代で「夜のパン屋さんを開催中です」と道行く人たちに呼び掛けてチラシを配り続けま



夜のパン屋さんの開店を知らせる看板を置く

けて、トレーやレジの準備も整い、雑誌『ピッグイシュー日本版』の出張販売用ブースも構えました。

開店と同時に、次々とお客様が入ってきます。販売員たちが「元気よく」「夜のパン屋さんはこちらです」と案内します。お客様にとつては、近所にない製パン店のパンが購入できる機会なので、POP広告や表示ラベルをじっくり読み、販売員の説明に耳を傾けながら品定めをしていきます。

スタッフ同士では、「きょうは開店から売れ行きがいいね」「このパンがもう売れ切れそう」「あと30分、頑張ろう」と声を掛け合います。この日、販売員として働いたのは、10代から20代の居場所づくりや自立をサポートするNPO法人CANに通う若者3人です。開店前の準備から、トレーの受け渡しや接客、会計をそれぞれが担当し、時給1200円で5時間勤務しました。いくつかの障がいのある相原悠さんは、日中は就労継続支援B型事業所で働きながら、2025年8月から夜のパン屋さんでも働くようになります。「人と会話するのが好きなので、体調が良い時に参加しているので、体調が良い時に参加しています。」そうした努力もあり、客足が途絶えることはほとんどなく、閉店予定時刻の少し前の、午後6時50分に完売しました。

この日、販売員として働いたのは、10代から20代の居場所づくりや自立をサポートするNPO法人CANに通う若者3人です。開店前の準備から、トレーの受け渡しや接客、会計をそれぞれが担当し、時給1200円で5時間勤務しました。

夜のパン屋さんは、料理研究家で認定NPO法人ビッグイシュー基金（本部・大阪市）共同代表だつた枝元なほみさんの発案で、新型コロナ禍によって『ビッグイシュー日本版』の路上販売が困難になつた時期

東京以外では初となる
夜のパン屋さんを開催

東京では、相原さんは「このパンは仕込み水に牛乳だけを使ったパンです」などの声掛けや、目当てのパンを探している常連客へ「あのパン、今日は入荷していないんですよ」と伝えていました。別の販売員は「会計を任せてもうれしい」と述べます。

夜のパン屋さんでは、提携する複数の製パン店からパンを定価より安く買い取る条件で引き継ぎ、夜間に別の場所で定価販売することで、集荷や販売などの仕事を創出し、ホームレスや引きこもりの経験者、シングルマザーなど、さまざまな事情を抱える人たちを雇用するものです。売り上げは、店頭で販売した人の賃金、パンを預けた店への支払いに充てられます。

札幌では2022年11月3日、

夜のパン屋さんは、料理研究家で認定NPO法人ビッグイシュー基金（本部・大阪市）共同代表だつた枝元なほみさんの発案で、新型コロナ禍によって『ビッグイシュー日本版』の路上販売が困難になつた時期

東京以外では初となる
夜のパン屋さんを開催

東京では、相原さんは「このパンは仕込み水に牛乳だけを使ったパンです」などの声掛けや、目当てのパンを探している常連客へ「あのパン、今日は入荷していないんですよ」と伝えていました。別の販売員は「会計を任せてもうれしい」と述べます。

夜のパン屋さんでは、提携する複数の製パン店からパンを定価より安く買い取る条件で引き継ぎ、夜間に別の場所で定価販売することで、集荷や販売などの仕事を創出し、ホームレスや引きこもりの経験者、シングルマザーなど、さまざまな事情を抱える人たちを雇用するものです。売り上げは、店頭で販売した人の賃金、パンを預けた店への支払いに充てられます。

札幌では2022年11月3日、

ビッグイシューさっぽろの設立15周年記念イベントとして、東京以外では初めてとなる夜のパン屋さんを開催しました。夜のパン屋さんを行うためには、製パン店の協力が不可欠です。ビッグイシューさっぽろのボランティアメンバー10人が仕事の合間などに、夜のパン屋さんの仕組みを説明する資料を携え、飛び込みで札幌市内の製パン店を回り、協力を仰ぎました。当時、札幌では夜のパン屋さんの知名度はまだ低く、理解を得られにくい状況ではありました

こうして札幌市北区北18条西4丁目の書店「SeesawBooks」の店先を

路上で夜のパン屋さんの営業を呼び掛ける平田さん



1個ずつ表示ラベルを貼り付ける



商品の個数などを確認する平田事務局長（右）と相原さん（左）



開店直後からお客様が入ってきた

課題乗り越え 東京と札幌だけで継続中

夜のパン屋さんの試みは来場客からも好評で、「せっかくできたパン屋さんとの縁を一度きりで終わりにするのは惜しい」というスタッフの声もあり、月1回のペースで販売することが決まりました。2回目となつた2022年12月6日の販売では、市内の6店から集めた約170個のパンを並べ、午後4時にオーブンすると90分ほどで完売しました。

年が明けた2023年1月の3回目は、提携店が8店舗に増え、開店時間が遅い状況ではありましたが、なんとか6つの店から商品を預かることができました。



レス支援シェルターに入居していた人たちがパンを売りはじめたのです。枝元さんのトークショーも開かれたこともあり、集めた150個のパンは、来場者が次々と購入して、終了30分前には完売しました。

前から並ぶ人も現れるほどの盛況ぶりでした。

夜のパン屋さんが注目されるようになると、各地で開きたいという相談が発案者に寄せられたそうです。しかし、東京以外で夜のパン屋さんを定期的に開催できている地域は、いまだに札幌だけです。

製パン店のフードロスを防ぎ、来店客には新たな味に出会う楽しみを提供し、生活に困っている人の働く場を確保するという、「良いことばかりの取り組みではあります、パン屋さんの協力を得るのも簡単ではないですし、販売場所を安く提供してもらえない」と、たちまち赤字になってしまいます。さまざまな条件が重ならないと続けられません」と平田さんは言います。



ビッグイシューの出張販売も行っている



「どのパンにしようか」と話す親子



POP広告で製パン店を確認する



商品を説明する相原さん

製パン店は、原料や人件費が高騰したこと、格安で夜のパン屋さんに提供することが難しくなり、そもそもフードロス予防のため、余分なパンを焼かないようになっていました。現在協力している製パン店の中には、夜のパン屋さん向けにパンを焼いてくれる店もあるそうです。

複数の場所で週3、4回販売している東京では、パンの運搬、販売は全て有給のスタッフが行いますが、札幌ではパンの運搬などは無償ボランティアが支えています。「東京は経営的には厳しいですし、札幌も車を出せるメンバーは限られるので、これ以上、開催回数を増やしたり、提携先を広げたりすることは難しい状況です」。(平田さん)

これまで「夜のパン屋さん☆札幌」と見せます。書店と宿泊施設の両方を経営し、販売場所として敷地や施設を破格の条件で提供している株式会社PLOWの神輝哉代表取締役は、ホームレスなどの支援シェルターも運営しています。「同じ志で活動しているビッグイシューさっぽろとは強い信頼関係があり、できる限り協力していくつもりです。夜のパン屋さんの集客力による相乗効果もあると思うので」と期待を寄せます。

大寒波の夜に行列ができたこともあれば、花火大会と開催日が重なり、人通りが多くても誰も足を止めてくれない夜もありました。働く喜びと苦労を重ねながら、「夜のパン屋さん☆札幌」は、さまざまな人たちの助け合いによって続いているます。2025年10月末までの3年間で、6746個のパンを売り、販売員として延べ85人が賃金を得てきました。

夜のパン屋さんを中心活動するビッグイシューさっぽろのメンバーの一人は、「社会の一員として誰かとつながっていることを感じられる場として存続させたいと思つていま

誰かとつながれる
居場所として

す。小さいままで無理をせず、楽しく続けていくことを一番に考えています」と語ります。

最近は比較的価格が高いパンの売れ残りがあるなど、完売しないことも増えてきました。平田さんは「北海道大学などの学生が多い地域なので、手頃な価格の商品も増やしていくければ」と話します。売れ残ったパン

ンは、ボランティアスタッフが買ったり、ホームレスなどの支援シェルターに寄贈したりしています。

ホームレスをビジネスパートナーに変える

雑誌『ビッグイシュー』は、1991年9月にイギリスで誕生したストリートペーパーです。ホームレスや生活困窮者が独占的に販売することで、売り上げに応じた一定額が販売者の収入となり、社会復帰を後押しします。

『ビッグイシュー日本版』は、全ての人が生きやすい社会、特に若者が希望を持つて生きられる社会をつくりうと、有限会社ビッグイシュー日本（本社・大阪市）が2003年9月に創刊しました。毎月1日と15日に発刊し、2025年4月1日に通巻500号を達成しました。当初の販売価格は90円でしたが、現在は500円です。

販売を希望するホームレスなどの人には、最初に10冊を無料で提供し、その後も1冊250円で雑誌を仕入れてもらい、1冊売るたびに250円の収益を上げることができます。ビジネスパートナーとなります。

客足が途絶えることはなかった店内



コロナ禍に始まった第1回「夜のパン屋さん☆札幌」(2022年12月6日) (ビッグイシューさっぽろ提供)

る声かけや炊き出しなどの支援も活発に行っています。

『ビッグイシュー日本版』が創刊された4年後の2007年9月、同会がサポート団体となり、札幌市内の雑誌の販売が始まりました。当時の上田文雄札幌市長の協力もあり、路上での販売が困難になる冬季は、地下鉄東西線大通駅コンコースに販売場所を確保しました。

ただ、夜回りなど夜間の活動が多い同会と、午前中に販売者へ雑誌の卸売を行うビッグイシュー関連業務では時間帯が異なるため、2008年3月22日に「ビッグイシューさっぽろ」という新しい組織を立ち上げ、雑誌の取次業務を分離しました。「ネットカフェ難民」と呼ばれる若者のホームレスが社会問題化する

ビッグイシュー さっぽろの歩み

2007年、札幌でも『ビッグイシュー日本版』を販売できるよう取次業務を始め、ホームレスの自立支援に取り組んだのが野宿者調査・支援の団体「北海道の労働と福祉を考える会」で、北海道大学の教員や学生が中心となり、1999年11月に結成した組織でした。

当時、札幌駅や大通駅、狸小路周辺などに野宿をしている人々が100人ほどいました。ホームレス問題の背景を調査し、社会的要因などを分析するとともに、夜回りによ



『ビッグイシュー』を手にする平田さん



2014年に開かれた札幌のイベントで
料理を振る舞う枝元さん
(ビッグイシューさっぽろ提供)

中、2008年春から平田さんはビッグイシューさっぽろの活動に参加するようになりました。当時は、北海道大学准教授だった中島岳志さん（現東京科学大学教授）が代表を務めていましたが、今はボランティアスタッフが主体となり、代表不在の形で運営しています。

運営スタッフは出られる時だけ

平田さんが活動に参加した頃は、ビッグイシュー販売者の生活は、その日暮らしで、一日の売り上げをすぐについ果たす人が多かつたそうです。ビッグイシューさっぽろが貯金のサポートや携帯電話の購入、借りられるアパート探しなどにも取り組み、少しづつ生活を改善する人たち

が出てきたそうです。

ホームレス状態から脱した人も、希望すれば雑誌の販売は続けられます。平田さんは「職歴にプランクがあるほど就職は厳しいですか」と打ち明けます。

ビッグイシューさっぽろで現在活動しているメンバーは、事務局長の平田さんはじめ、20人ほど。全員がボランティアで、事務所に常駐するスタッフはいません。主な業務は、毎週火・木・土曜日の午前9時半から同11時までの間、事務作業を交替で行うほか、「出会い系の街角」という独自の読者レターを作成して、『ビッグイシュー』に挟み込んでいます。

広報などを目的としたイベントを開催することもあり、そのゲストに何度か枝元さんを招いていたことが、「夜のパン屋さん☆札幌」の開催へとつながりました。

また、夜のパン屋さんの開催日は、パンを運搬し、販売をサポートする運営スタッフとして数人が参加しますが、「連絡を取り合いながら、出られる時に出てもらう感じですか」と平田さんは説明します。

内容も魅力の「ビッグイシュー」

『ビッグイシュー日本版』の販売

部数も徐々に減少し、ビッグイシュー

さっぽろが仕入れる部数も、始めた頃

の600冊から、現在は

250冊まで減っています。

札幌駅と大通を結ぶ地下歩行空間（チカホ）の「インフォメーションBOX」

では、販売歴18年になる販売者が常駐し、『ビッグイシュー日本版』を販売しています。地下歩行空間を管理する札幌駅前通まちづくり株式会社から、道案内をすることを条件に販売場所の提供があり、歩行者の往来が多いので雑誌がよく売れる反面、道案内することも非常に多く大変だそうです。

雑誌を買いに出掛けるのが大変な人や販売者のいない道内市町村でも読んでもらえるよう定期購読制度も始まっています。この売り上げの半分も販売者に分配されています。

「活字離れが深刻で雑誌を売るのも大変な時代です。多くの市民が読

んでくれることが、同じ市民であるホームレスの再チャレンジを応援する力になります。ただ、それだけではなく、雑誌の特集は『編み物』や『外国人問題』など多様で、コラムも『ホームレス人生相談』など内容もすごく面白いので、ぜひ手に取ってもらえれば」と平田さんは話します。



『ビッグイシュー』を販売しているチカホの案内所
(ビッグイシューさっぽろ提供)

お問い合わせ先

ビッグイシューさっぽろ

〒064-0808

札幌市中央区南8条西2丁目5-74

市民活動プラザ星園305号室

※スタッフがいるのは、火・木・土の午前

9時30分～11時のみです。

電子メール

<https://bigissue-sapporo.com/>

ブック・ストーリーズ
本づくりの
さきに
あること――。

【ぶらっとBOOK代表】
星野 恵さん

多世代が交流する 地域の居場所として 札幌でシェア型書店 「ぶらっとBOOK」を開店し、 もうすぐ1周年――

ぶらっとBOOK代表の星野さん

本棚を約30cmに仕切って区画ごとに貸し出し、その本棚に自分が売りたい本やお薦めの本を自由に置くことができる、シェア型書店「ぶらっとBOOK」が札幌に誕生してもうすぐ1年を迎えます。電子商取引(EC)の普及や若い世代の読書離れ、人口減少などに伴い書店が減り続ける中、札幌ではまだ珍しい棚貸しの書店には、どんな本が置いてあり、どんな人たちが本を売っているのか。代表の星野恵さんに、開店の動機や書店の魅力、今後の見通しなどを聞きました。

(文・写真／片山健一 取材日2025年12月9日)

開店40日後には 136棚が満杯に ――ぶらっとBOOKの現況を教えてください。

2025年2月1日にオープンした時は、ほとんどの棚が空いていましたが、現在は136ある棚（区画）が満杯です。

棚の借り主である「棚オーナー」が気軽に活用できるように、デポジット（預かり金）を含め初期費用は1万円以内に設定しました。そして、オープン5日前からクラウドファンディングを始め、寄付に対応するリターン（返礼）を「棚オーナーになる権利」にして、25日間支援を受け付けたところ、終了時点には約100人の棚オーナーが集まりました。

当初用意していた129棚が全て埋まり、キャンセル待ちも発生したので、急ぎ7棚を追加して136棚にして、それも埋まつたのがオープンから40日目でした。

創成イーストエリアに出店した理由は、ワーカーズコレクティブスタイルで運営するぶらっとBOOKメンバーの私たちが近所に住んでいて通いやすいからです。この辺りの物件は賃料が高い上に、なかなか空きもなくて、2年間ぐらい探しました。ランニングコストは賃料と光熱費

皆で作る小さな本屋が 町の魅力へとつながる

――シェア型書店を始めるきっかけは。

私の地元が福岡県で、帰省した時にシェア型書店の「糸島の顔が見える本屋さん」を運営されている方に出会い、お店を訪ねてみると、とても素敵な空間でした。札幌でもやってみたいと伝えると、東京都の吉祥

ぐらい、店番は棚オーナーが交替で行うので、それほど手間もかかりません。大きく儲けようとは思いませんが、長く続けていくため、費用などの面で負担が生じないように始めました。

今も4、5人が空き待ちの状態ですが、月に2、3棚は入れ替わっていますので、それほど長く待たなくて借りられると思います。



棚づくりは星野さんの夫が担当した

寺にある「ブックマンション」を紹介され、代表から運営方法や料金設定などについてアドバイスをもらいました。

特に、店番を棚オーナーが交替で担当するという仕組みは、私たちが店に縛られることがないので、これなら長く続けられるだろうと、始め取つて読みたいというニーズもまだあると思つていました。

本屋をやつてみたい本好きの人は多くいますが、相当なコストが掛かり、リスクもあって簡単には踏み出せません。でも、棚貸しの書店であれば、安定した収入が確保でき、皆で一つの本屋を作り上げていく面白さも加わります。

地域に個性的な本屋があることは、街の魅力になると思います。喫茶店だと必ずお金を払わなければいけませんが、本屋は入るだけなら無料なので、居場所として敷居が低いことも良い点だと思つています。

店番は個性豊かな棚オーナーによる交替制

——棚オーナーはどんな方たちですか。

棚オーナーは、上は80代から下は



地元で活躍する絵本作家の棚



起業家を目指す小学生の「小六書店」には経営書などが並ぶ

ことができたと喜んでいるオーナーもいます。

棚に置く本は、売るも売らないもオーナーの自由です。

店内閲覧用という形で置いている方もいます。めったに古書市場に出てこないような昭和時代の本や漫画もあります。

棚貸しの料金は、「店番あり」の通常プランと、「店番なし」のプランを用意し、通常プランを割安に設定しているので、多くのオーナーが「店番あり」を選択しています。店番は3~4カ月に1回程度の当番になっています。

道内だと遠くは遠軽町や旭川市からでも店番に来ますし、小学3年生の最年少オーナー

ナーは兄とお母さんもオーナーと一緒に店番をしています。皆さん「店番が楽しい」と言います。棚オーナーが店番をしている時には、私は極力、顔を出さないようにして、自分の店という感覚を存分に味わってもらおうと思っています。

訪れるお客さんは、大人がほとんどですが、たまに、お父さんやお母さんと保育園帰りに立ち寄るお子さんもいます。

本を通した地域のサードプレイスとして

——実際にやつてみて気付いた、シェア型書店の魅力は。

棚に本を並べるだけなのに、こんなに個性が發揮されるとは思いませんでした。写真集の隣に小説があり、絵本もある。そんな棚の本を見



小さなカウンターの中で店番をする棚オーナー

ていくと、「この棚オーナーは絶対、私と話が合う」という棚が見つかります。棚に置いてある本を通じて間接的なコミュニケーションが行われているようです。

棚オーナーさん同士が、棚の整理などで、ばったり会うと、「私、この棚なんです」とすぐに会話が盛り上がります。そんな「ご近所感」もあります。

知的な方が多いので、システムの説明や引き継ぎなどのやり取りもスマートで、優良なコミュニティが形成されていくことが、実際にやってみて分かりました。

オーナーの皆さん本当に楽しんでいて、シェア型書店を始めたことを感謝されるのもうれしいです。地域のサードプレイス（第三の居場所）になればいいなどは思っています。

2026年2月の1周年には、棚オーナーが交流する「100人の棚オーナーの会」を企画しています。

2026年2月の1周年には、棚オーナーが交流する「100人の棚オーナーの会」を企画しています。

私は4人の子どもを育てていて、多世代の交流があると、子育ては楽

る形になればと思っています。

クラブルが設けたフリースペースの「まるーむ」がありますが、将来的に2号店を出店したら、本屋とレンタルスペースを併設して、子育て支援を行いたいと考えています。棚オーナーが負担する利用料でフロアの賃料を賄い、非営利活動を支援する形になればと思っています。

地元の人たちが交流する場がシェア型書店という形で存続していくと、理想的なサードプレイスになるはずです。このスタイルが一軒も本屋がない町でも成立すれば、地域の活性化につながるのではないかとうか。

わたくして開催してきました。

支援活動に取り組む中での課題は、自分たちの活動拠点を持つことが難しいことでした。支援を利用する方からお金をもらうことはできないので、活動資金が乏しくなりがちです。自由に使える場所があれば、もっと支援の幅を広げられるのにと、もどかしい思いがありました。

ぶらっとBOOKの奥には、生活

支援活動に取り組む中での課題は、自分たちの活動拠点を持つことが難しいことでした。支援を利用す

つながらツールとして本は非常に有効で、赤ちゃんから高齢者まで共通で楽しむことができます。

ここに子ども連れで来たら、いろんな人がお薦めする絵本が買えて、絵本の読み聞かせをしているおばあちゃんに出会えるといった、多世代交流が自然に生まれるのもシェア型書店の魅力の一つだと思っています。

棚オーナー同士の交流も楽しみの一つ



多世代が交流する場にしたいと語る星野さん

2011年に夫の転勤で札幌に来てから、子育て支援活動を行う「一般社団法人相互支援団体かえりん」という団体を立ち上げ、子ども服の「おさがり交換会」などを約10年に

—今後について、考えていることを聞かせてください。

シェア型書店が育む 多世代交流



創成イーストエリアにあるぶらっとBOOK

【シェア型書店ぶらっとBOOK】

〒060-0054

札幌市中央区南4条東3丁目19-1階

Instagram

<https://www.instagram.com/prattobook/>

※営業日・時間は不定のため、Instagramなどで確認を



●棚オーナーになるには

料金について

- ・通常プラン（約3カ月に1回の店番あり）= 3,300円（税込）／月
 - ・店番不要プラン（店番なし）= 5,500円（税込）／月
- ※初回申込時には、デポジット（預かり金）が利用料の2カ月分必要となり、退会時には手数料を引いて返金します。
- ・本が売れた際には、1冊につき100円の手数料がかかります。

申し込みフォーム

<https://forms.gle/yRVvT6uXnzaMD425A>



ほっかいどうの本

このコーナーは北海道の出版社から発行された本を社員が読み紹介しております。お近くの書店がない場合は発行先へお問い合わせください。特記以外は税込価格です。

RUST RUN!!!

978-4-86721-168-7

上冠 憐 著/始発ちゃん 絵
四六判 272頁 1430円
北海道新聞社 発行
011・210・5744



本書は、北海道の鉄道ローカル線の廃止を主題としたアンソロジーです。現代日本が直面する社会の課題を背景に、青春の哀切を描いています。著者の上冠愁氏は、京都大学文学部3回に在籍する現役の学生であり、本作でデビューを果たしています。16歳の時に「世界は日本色に染まる」でカクヨム甲子園2021ロングストーリー部門大賞を受賞。受賞作は第三部に収録されています。

第一部は、札沼線の存続を目指し、高校生たちの熱い青春の日々が綴られています。彼らの夢と情熱と努力が、社会の無関心や新型コロナウイルス禍の影響といった時代の大きなうねりの中で、いかに闘い続けたのかを描写しています。

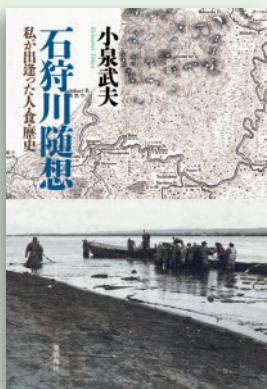
第二部では、石炭産業の崩壊という北海道の重い歴史（幌内線）が、第三部は、自然災害による路線の断絶（日高本線）がテーマとなります。著者は、「ローカル線の廃止が「過疎化によって消えゆく地縁そのもの」であり、その儚いそが北海道の魅力だと語ります。道央の片隅に確かにあったローカル線の物語一心に響く一冊です。

（フリエイション部 横山美樹）

石狩川隨想

978-4-906740-72-7

小泉 武夫 著
四六判 181頁 2420円
亜璃西社 発行
011・221・5396



発酵学の第一人者である著者が、定年を機に始めた北海道石狩地方での暮らしを通して、出会った人々の生活や食、土地や歴史について丁寧に綴った随想集です。

地元の漁師さんたちとの温かなエピソードを交えながら、石狩川周辺の豊かな自然が育む食材について語られています。発酵学の科学的な視点を持ちながら、食を愛する一人の人間として、土地に根ざした確かな知恵を伝えている点が印象的です。鮭や鱥といった名産品が、単なる美味しい食べ物ではなく、歴史や文化に根ざした存在として鮮やかに描き出されています。

また、地域に伝わる郷土の祭事や、石狩川流域に生きる動物たちの生態や変化についても触れられており、この土地の豊かな食と文化が継承されていくことへの願いや大切さ、生きることの豊かさを改めて感じさせてくれます。

読み終える頃には、石狩川の流れに思いを馳せながら、身近な食や風土をあらためて見つめ直して、自分の視野を広げていくために良質な本です。

サイエンスコミュニケーションの道具箱

978-4-87739-428-8

北海道大学 CoSTEP 編著
A5判 124頁 1980円
共同文化社 発行
011・251・8078



科学の専門知識をいかに社会へ届け、双方向の対話を生み出していくか。そうした「サイエンスコミュニケーション」の必要性が年々高まっています。本書は、北海道大学の科学技術コミュニケーションの初学者に向けた「知識の道具」が詰め込まれています。

情報の伝え方や対話の進め方、体験のデザインなど7章で構成され、図や写真が豊富で1テーマ見開きで分かりやすく紹介されています。40ものテーマが掲載されているので、興味があるところから読むことができ、これまで触れてこなかった分野に目が留まるはずです。

私自身、特に「グラフィックス」や「先端メディア」の章に関心を持ちました。「次はこれを深掘りしてみよう」と思われる学びの種が、至るところに散りばめられています。

科学と社会との繋がりを知るための入門書として、自分の視野を広げていくために良質な本です。

（東京営業部 石橋知樹）

新刊情報

書名の下の数字は日本国書コード(=ISBN)及び雑誌コード。特記以外は税込価格。

石狩川隨想
—私が出逢った人・食・歴史—

978-4-906740-72-7

カレンダー2026

しまえながのきもち

山本 光一 写真
A5判 14枚

978-4-86721-173-1

ファイターズ2025
オフィシャルグラフィックス

北海道新聞社 編
A4判 128頁

978-4-86721-181-6

カレンンダー

北海道の鉄道風景2026

北海道新聞社 編
A3判 14枚綴り

978-4-86721-171-7

ファイターズカレンダー
2026

北海道新聞社 編
A4判 14枚綴り

978-4-86721-180-9

デジタルインフラと北海道

DXで耕す北の未来

北海道新聞社 編
A5判 19枚
北海道ニュースピアデータセンター 研究会 著

978-4-86721-176-2

ボボときいろのたび

アトリエボボ
A5判 32頁

978-4-86721-179-3

記者がたどる戦争

北海道新聞社 編
A5判 32頁

978-4-86721-183-0

北海道の業界地図

2026-27

北海道新聞社 編
B5判 208頁

1980円

978-4-86721-177-9

北海道の自然じかん

日本一の氷の道ができるまで

NHKスペシャル
「氷」その神秘の世界～映像詩 天塩川～ 取材班 編

978-4-86721-175-5

いぐえみ綾原画展パンフレット

Our Stories —from Sapporo—

北海道新聞社 編
B5判 56頁

978-4-86721-175-5

道新プラス道新受験情報

2026高校入試志望校決定特集

16747-11

北海道の農業

令和7年版

A4判 60頁

北海道の農業
令和7年版

北海道農協年鑑

978-4-86453-110-8

北海道の農業

北海道新聞社 編
B5判 212頁

990円

978-4-86453-111-5

北海道の農業

北海道新聞社 編
B5判 592頁

13200円

978-4-86453-111-5

北海道の農業